

島原市 × 法政大学

みず・ひと・まちの未来モデル 研究成果発表

法政大学

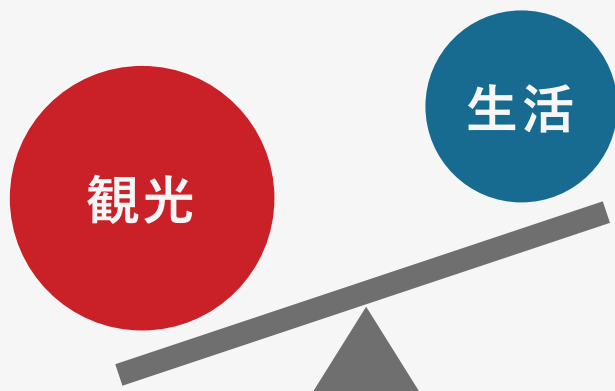
野田岳仁ゼミ

いま名水百選選定地は 存続の危機に直面している

名水百選選定制度とは

1985（昭和60）年からはじまった環境省による名水百選選定制度
「名水」のお墨付きを与えることで環境保全と地域活性化を目指す
新たな管理の担い手確保や経済的効果が期待されている

なぜ存続が危惧されているのか？



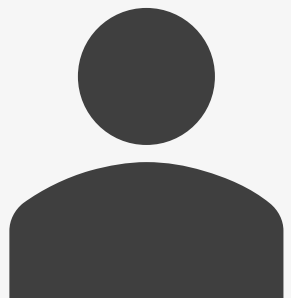
生活と観光の折り合いが
つけられない



利用者・管理者の
減少や高齢化

誰も利用しない魅力のない観光スポットに変貌も…

地元住民からは…



昔とは変わってしまった

なんのために守るのか



存続に疑問を抱く声が発せられるようになっている

名水百選選定地でみられる政策的対応

管理の担い手の数を増やす努力

① 自治会構成員を動員、NPOやボランティアを募る

義務や強制力では続かない。管理者は水場の利用者でなければ
きれいにならない（富山県黒部市生地地区）

② 清掃業者に委託

地元住民の管理権を奪われた結果、誰も使わなくなってしまった
（秋田県美郷町六郷地区）

（野田 2018）

なかなかうまくいかない
数を増やすだけではダメ

本当に問題なのは
“観光地化” や “担い手不足” ではなく…

地元住民の暮らしに根付いた
水場の「価値」を知る利用者がいなくなること

生活利用の「価値」から離れた水場が保全されること



本質的な問題は…

名水百選選定地制度による 《水場の存続》

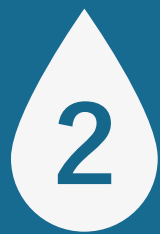


住民の暮らしに根付いた
《水場の「**価値**」の存続》

島原湧水群の2つの水場に注目



1 浜の川湧水



2 水頭の井戸

「価値」のわかる人を新たに迎え入れたり
脱退させないような工夫をしている



水場の「価値」存続の論理がある



本研究の目的

住民の暮らしに根付いた 2 つの水場の
「価値」 存続の論理を明らかにする

水場の「価値」とは何なのか？

浜ン川の石積み洗い場・昭和30年頃

昭和30年代



(島原市白山地区「四船津」ふるさとの「方言」と「写真」の保存実行委員会編 平成26年・2014)

昭和後期



(昭和後期・地元住民提供)

昭和45年



(島原市市制30周年記念『島原』昭和45・1970年)

平成3年



(島原市勢要覧'91年・平成3年)

社交場として人びとが集まっていた

ここではどのようなやりとりがあったのだろうか？

野菜を洗いながら、洗濯をしながら四方山話をしたり、
情報交換をしたり、たまには嫁やしゅうとめの悪口のはけ場所でもありましたが、若い嫁さんは先輩のお母さん方から、子育てや、近所づきあいのしかた、家事にいたるまで、大事な生活の知恵を学びました。
これが井戸端会議 です。

(有明町教育委員会編 1997)

生活の知恵を学ぶ場

井戸端会議

現在では水道の栓をひねると簡単に水を得ることが出来ますが、最近まではポンプ井戸のある家はほんの少しでした。車井戸、ハネツルベ（土間釜）を使って堀井戸から水を汲んでいました。その井戸も各家にあるのではなく、多くは共同井戸でした。朝夕は水桶をかついで、共同井戸で水を汲み家にそなえてある飯水瓶（はたけびん）に貯えました。その水を飲水（いんすい）としては勿論のこと炊事、洗面等に使ったのです。水汲は女、子どもの仕事でした。風呂をわかすときなど何回も家と井戸を往復しなければならず、大変な労力でした。今のよう三、四人の家

町を流れているすべての川に沢山の井戸端があつたのです。流れ川に大小の石を列べてせきをつくり、そこを野菜洗いや洗濯の場所としたのです。野菜を洗いながら、洗濯をしながら四方山話をしたり、情報交換したり、たまには嫁やしゅうとめの悪口のはけ場所でもありましたが、若い嫁さんは先輩のお母さん方から、子育てや、近所づきあいのしかた、家事にいたるまで、大事な生活の知恵を学びました。これが井戸端会議です。

たまには嫁やしゅうとめの悪口のはけ場所でもありましたが、若い嫁さんは先輩のお母さん方から、子育てや、近所づきあいのしかた、家事にいたるまで、大事な生活の知恵を学びました。これが井戸端会議です。

現在も、憩いの場になっていたり…



水を汲んだり、洗い物・洗濯をしたり…



子どもたちが遊んでいたたり…



水場の「価値」

1. 水汲み・台所・洗濯場
2. 子どもの遊び場
3. 地域の社交場・憩いの場
4. 生活の知恵を学ぶ場

生活にかかせない多様な「価値」がある

名水百選選定制度は、水場の存続を目指しているが

住民の暮らしに根付いた

水場の「価値」の存続

には至っていない

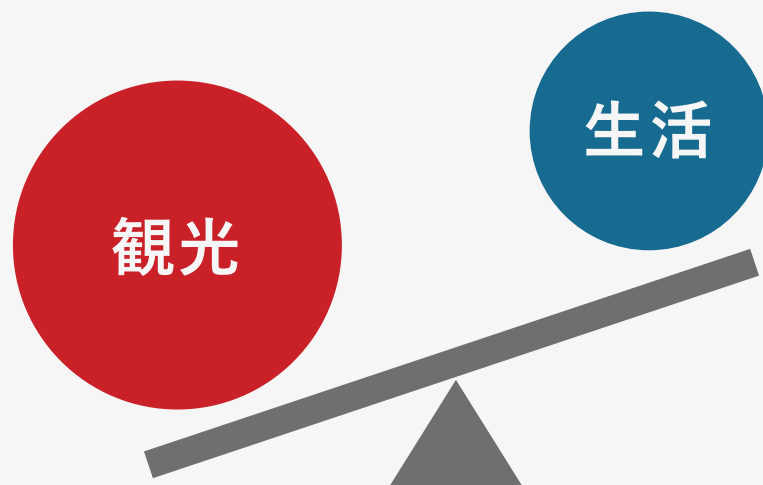
水場①

浜の川湧水

浜の川チーム：島津・上島・成清・望月

浜の川湧水の 「価値」 存続の論理

名水百選選定地では
生活の場である水場に注目が集まる



生活と観光の折り合いがつけられない
という問題が起こりやすい

にもかかわらず…

生活

浜の川町内会の
共有地にある
共同洗い場



観光

島原市の政策上
「銀水」とともに
観光施設
という扱い

生活と観光とが共存している

銀水

浜の川湧水に隣接する島原名物「かんざらし」の名店
1998年に一度閉店したが、2016年に営業再開



浜の川湧水の1日の利用者数

88人

(2018年 8月)



343人

(2024年 5月)

約4倍に増加！

市内有数の観光スポットに

観光地化に伴う影響も…



時間帯を意識した
水場の利用



私有地への無断駐車



柄杓の破損や盗難

島原湧水群の代表格「浜の川湧水」

浜の川町内会の共有地にある**共同洗い場**

5つに区切られた洗い場は
区分ごとに
使用目的が決められている



利用の実態

■ 表1 浜の川湧水の利用実態(利用件数／人数)

生活

観光

利用者の属性	町内会					島原市内					長崎県内					長崎県外					不明					利用件数	人数
利用区分	①	②	③	④	⑤	見	①	②	③	④	⑤	見	①	②	③	④	⑤	見	①	②	③	④	⑤	見			
6:00- 7:00	2			1	1				1		3														10	10	
7:00- 8:00	1			2	2						1														7	7	
8:00- 9:00							3			2															6	5	
9:00-10:00	1			4							4														14	14	
10:00-11:00				3	2						1		5	4					4						19	14	
11:00-12:00				2	1						2		9	5	5	5	5		13						48	31	
12:00-13:00													8		3	3			22						37	30	
13:00-14:00				1	1								19						11						37	38	
14:00-15:00													24	11		5		2	45						88	78	
15:00-16:00										1				2	19	4	4	4	32					4	74	62	
16:00-17:00				1	2						10		8						22						2	45	45
17:00-18:00				3						1					3				4						1	12	9
計	4			20	8		5		1	4	9	13	3		2	92	31	12	17	9	3	155	2	7	397	343	

浜の川町内会や近隣住民の
利用は早朝に集中

10時の「銀水」の
オープンとともに
観光客の利用に
一変

浜の川町内会や近隣住民の利用は早朝に集中

10時の「銀水」のオープンとともに観光客の利用に一変

生活 と 観光 の棲み分けがなされている

管理の実態

浜の川町内会が管理

毎週日曜日に **7つの班** が輪番制で掃除



浜の川町内会



戸数：42戸



人口：73人

(未加入者含めると83人)

利用と管理の実態を調査していくと…



数多くの利用を
7つの班で支えている



好きな時間帯に
水場を利用できない

住民への負担や生活上の窮屈さがあるようにも見える

にもかかわらず、浜の川町内会は…

**観光地化を
前向きに受け止めている**

疑問

なぜ浜の川町内会の住民は
観光地化を受け入れるのか？

見えてきたのは…

町内会が抱える2つの不安要素

①水質の安全性

②掃除の担い手不足

① 水質の安全性

住民の利用・水汲みに訪れる観光客が増えるなかで
水質の安全性の確保は懸念材料だった



水質検査

これまでは

島原市によって年に1回

浜の川湧水が店内に引き込まれた
「銀水」が復活すれば…



水質検査

食品衛生法の規制のもと

毎月行われることになる



利用者の安全と安心につながる

② 掃除の担い手不足

毎週日曜日に7つの班が輪番制で掃除を行っているが…



藻が生えないよう念入りなタイル磨きが必要

班ごとに**10人**ほど必要だといわれる

負担の大きい掃除には担い手の確保が求められる

掃除への参加者数を見てみると…

■表3 浜の川湧水の掃除への参加者数

班	2018年 (平成30)	2023~2024年(令和5~6)					
		4~5	5~7	7~8	9~10	10~12	10~1月
1	12	7	7	6	7	6	5
2	4	4	3	4	4	2	3
3	4	6	6	6	6	6	5
4	11	10	10	10	8	9	8
5	5	4	3	5	4	3	3
6	5	9	8	9	8	8	6
7	3	6	5	6	5	4	5

3班・6班・7班の
参加者数が増加している

なぜ掃除へ参加する人が増加しているのだろうか？

観光客が訪れることで…

きれいに
しておかないと
みっともない

という気持ちから
掃除に出てくる人が増加



「みんなで頑張ろうという気持ち」になり
「所有意識」の強化につながった

なぜ浜の川町内会の住民は観光地化を受け入れるのか？

水場の観光地化は

①水質の安全性

②掃除の担い手不足

町内会が抱える「2つの不安要素」を
解消するために効果的な手段であるから

しかし、別の疑問が残る

観光地化に対する住民の態度には差異があった



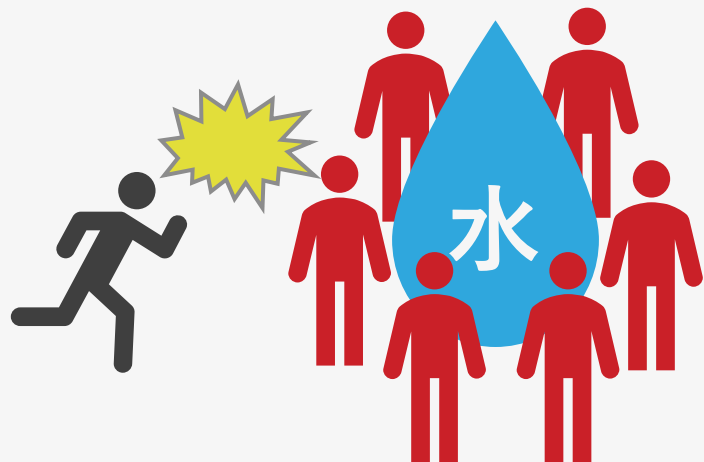
調査を進めていくと…

観光地化に
対する
意見の差異

浜の川湧水の
利用頻度

定説を覆すような関係があると分かった

これまでの地域資源管理の定説



利用頻度の高い人ほど
その価値を理解しているため
他の利用者を歓迎しない

浜の川湧水の場合



利用頻度の高い人ほど
その価値を理解しているのに
他の利用者を歓迎する

浜の川湧水では定説と真逆の現象が起きていた

本研究の問い

「利用頻度の高い人ほど観光客の利用を歓迎する」という

資源管理論の定説の逆転現象が

なぜ起こるのか？

浜の川湧水の管理体制は弱体化傾向にあり
浜の川湧水に行く末に疑問を抱く意見がないわけではない

しかし、聞きとりを行うと…

利用頻度の高い人



高齢化
しているけど
大丈夫でしょう

楽観的

利用頻度の低い人



高齢化してきて
浜の川湧水の
今後の心配

悲観的

この浜の川町内会の人びとの一貫した考え

水場の「価値」存続の論理

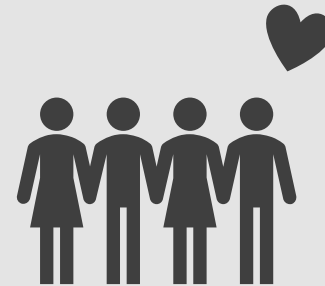
利用頻度の高い人は
心の底から
浜の川湧水の
利用価値を
感じている



こんなにいいもの
なんだから
独占することは
許されない

町内会以外の人
観光客にも
利用してもらい
その価値を
感じてほしい

価値を感じた
担い手が
現れる



自ずと
浜の川湧水は
存続する





満尾はるこさん

毎朝、浜の川湧水で洗濯をしている

浜の川湧水を訪れた人に
洗濯をする姿を見せることで…



浜の川湧水の
「利用価値」を伝えている



町内会長を務めていた
岩永兼満さん

浜の川湧水の掃除はできるもんが
やればいい
ちゃんと続いていく

価値の分からない人が掃除をしても意味がない



**価値の分かる人が掃除をすることで
存続する**

この論理と親和性が高いのは…

パレートの法則

全体の数値の大部分は全体を構成する一部の要素が
生みだすという考え方

(例) 売上の8割は全顧客の2割から生みだされている

2割の顧客に的を絞ったサービスが有効

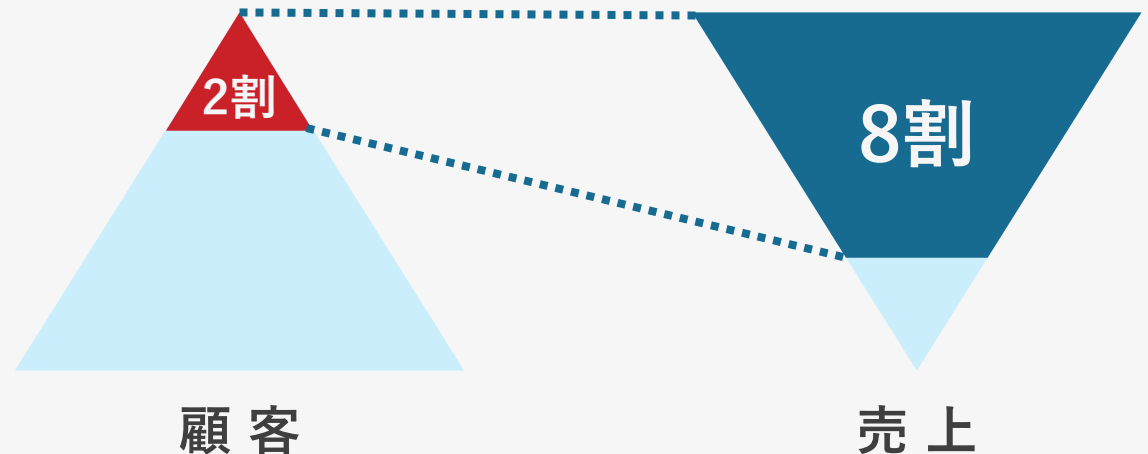


ヴィルフレド・パレート
経済学者/社会学者

少数の強力なファンを
生みだすことが重要



ビジネスの持続性を高める



浜の川町内会の人びとも同じような発想

水場の存続において、担い手の拡大よりも

「価値」の分かる人＝少数でも強力なファン
を増やそうとしている

じっさいに…



「銀水」社長
稲田智久さん

2020年に「銀水」の経営を引き継いでから
ほぼ毎週の掃除に参加

(5班に所属だが5班以外の掃除の際にも参加)

「銀水」があるのは浜の川湧水のおかげだと
心の底から感じている



浜の川湧水の強力なファン！

結論

「利用頻度の高い人ほど観光客の利用を歓迎する」という
資源管理論の定説の逆転現象がなぜ起こるのか？

資源管理論の定説の逆転現象を起こすことで

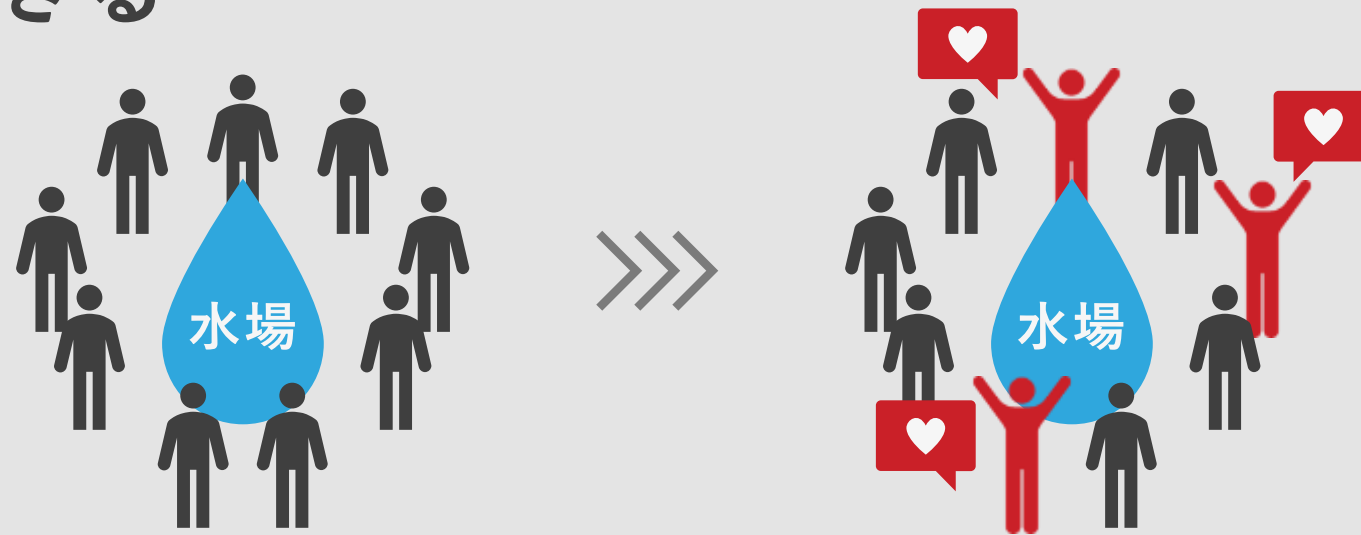
浜の川湧水の「価値」の存続につながる

と考えているから

浜の川湧水の利用価値を心の底から感じており

たくさんの人に使ってもらうことで、その「価値」を感じてほしい
と思っている

たくさんの人に浜の川湧水の「価値」を感じてもらうことで
少数であっても水場の「価値」のわかる強力なファンを開拓
することができる

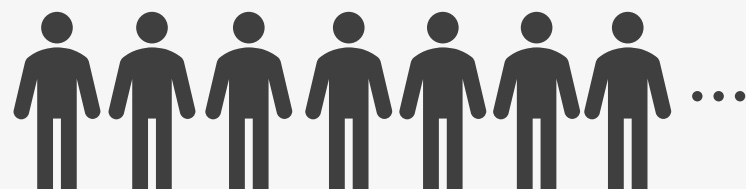


結果として

浜の川湧水の「価値」の存続につながる

私たちからの提言

名水百選選定地では、管理の担い手の拡大策について…



町内会員の参加を義務付ける・ボランティアを募る・
NPOや清掃業者に委託する



水場の「価値」の共有にはつながらない



魅力のない水場への変貌を招く

水場を利用しない「価値」のわからない人が動員されている

水場の存続に必要なのは…

水場の「価値」のわかる

強力なファンを開拓していくこと

どのようにファンを開拓していくのか？

浜の川湧水を

暮らしに利用してもらうことが重要

ファン獲得までのステップ

STEP 1

利用して
価値を感じる

暮らしに利用することで
暮らし・生業に
欠かせないと
心の底から価値を感じる

STEP 2

感謝の
気持ちが生まれる

利用だけをする状況に
「申し訳ない」という
気持ちが生まれる

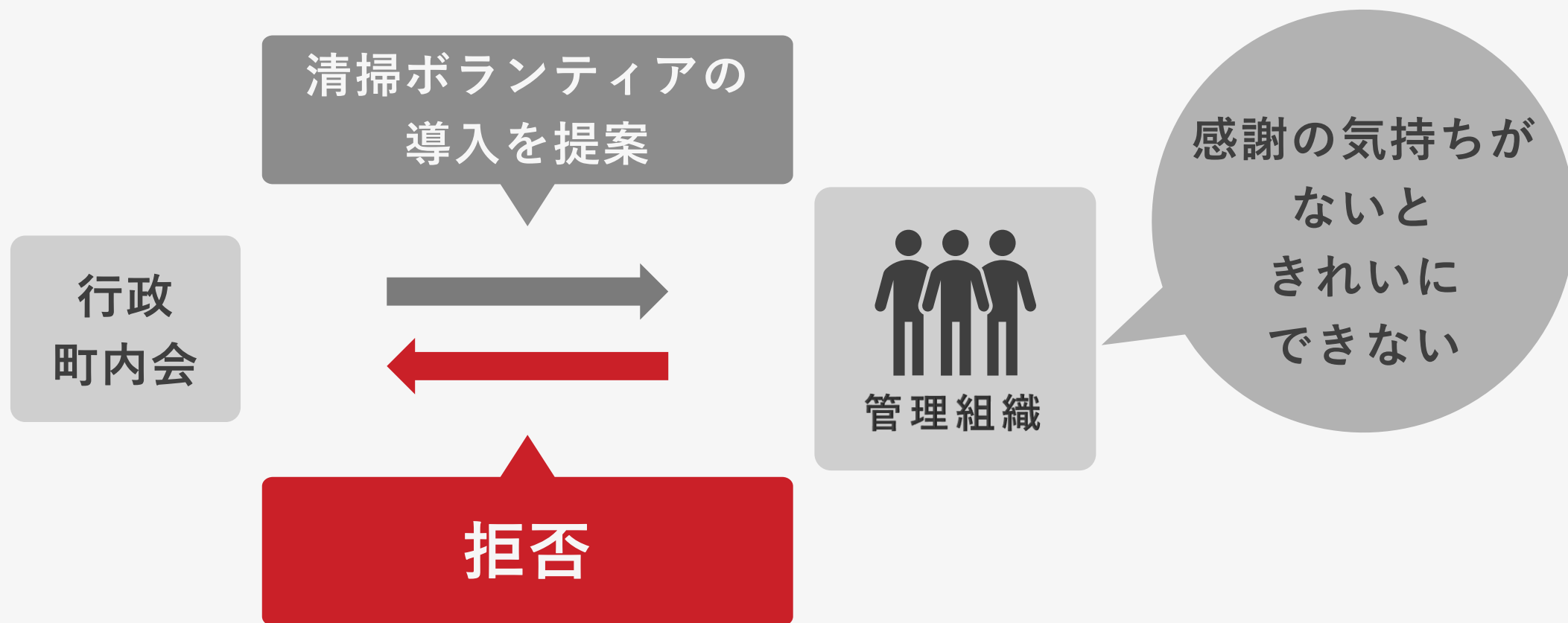
STEP 3

恩返しを
したくなる

恩返しがしたくなり
掃除に参加する

名水百選選定地である富山県黒部市生地地区では

名水百選に選定され観光客が訪れるようになったが
管理の担い手不足が問題に…

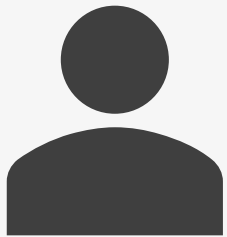


水場の管理組織は周囲からの管理強化策を拒否したが…

独自に新たな担い手を獲得！

その人は…

いつも利用させてもらっているので
何もしないのは申し訳ない



と自ら掃除を申し出た人

いつも利用する人で感謝の気持ちを持てる人を選んだ

(野田 2018)

どのようにファンを開拓していくのか？

× 「価値」 の分からない人に委託する

○ 暮らしに利用してもらい
「価値」 を共有できる利用者を招き入れる



ほかの水場の存続にも応用できる新しい知見

水場②

水頭の井戸

水頭チーム：藤澤・鈴木・岩元・長島・等々力

水頭の井戸の 「価値」 存続の論理

水場の管理は
利用者や管理者の減少・高齢化によって
担い手不足が深刻

にもかかわらず…

水頭地区は脱退者を出すことなく
82年間も水場の掃除が続いている

本研究の問い

高齢化の進む水頭地区において
なぜ82年間も脱退者をだすことなく
水場の掃除が続いているのか？

その理由を明らかにする

「水頭」地区とは



水頭の
井戸



町内会は中堀町町内会

この範囲は町内会の
3班と4班に該当

班のつながりとは異なり
「**水頭**」という単位を
明確に認識しており
強いつながりがあると
語られる

水頭の井戸の経緯

住民による井戸掘削

1942（昭和17）年に地元住民が井戸を掘ったところ自噴

（毎日新聞 1988.8.21/27）

戦時中に地元の人たちの協力により地下100メートルの井戸が掘られ
生活用水として愛用されてきた

（朝日新聞 1988.3.20）

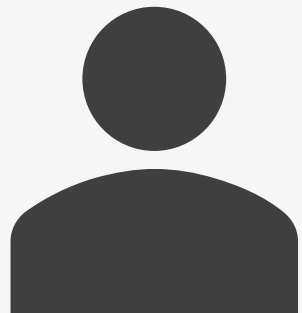


当時の利用方法

5つの区画に分けられ利用の使い分けがされていた



当時の利用の様子



井戸端で遊ぶ子ども達をいいときは褒めて、水槽の縁に土足のまま登ったりすると、水神様に怒られるといった感じでよく叱るおばあちゃんも2人くらいいました
私たちは自分の家でしつけられるというよりも、そういう人たちの言葉をよく聞きました

当時（1960年ごろ）に
水頭にお住まいだった
田端令子さん

水頭の井戸端は、生活の知恵を学ぶ場でもあった

当時の利用の様子

1990（平成2）年

雲仙普賢岳が噴火

灰の掃除をするために
水頭の井戸の水を利用



生活と切り離せない水場だった

当時の利用の様子

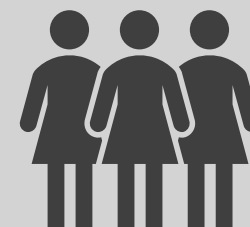
水神様のお祭り

年に1、2度程度集まって、会食や余興をした

水神様にお参りしてから
お祭りに参加するが
お祭り自体を楽しみに
している方が大半だった



当初は女性の参加が
多かった



参加者が高齢になり、老人会と統合

当時の管理と所有

管理

1軒ごと
2週間に1度くらいの頻度で当番制



土地の 所有権

田端令子さんによれば…
井戸ができた当時は祖父含め
5人くらいで共同の権利書があった



水頭の井戸の変化

島原市によるポケットパーク整備

1988（昭和63）年に「新活力あるまちづくり推進事業」の一環として「水頭ポケットパーク」を整備

総工費**243.8**万円（半額県補助）

24㎡を自然石の切石で張りつめる

井戸一基には上屋、滑車
ロープのツルベを設ける

奥行き約6.2m ・ 幅3.6m

木陰には**ベンチ**を設置



（島原新聞 1988.3.18;
朝日新聞 1988.3.20）

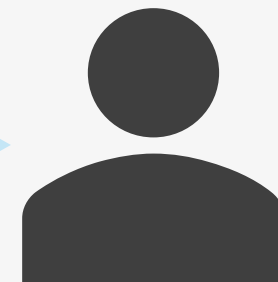


水の都・島原の新しい名所になると期待されている

(島原新聞 1988.3.18)

井戸端会議の新名所になりそう

(読売新聞 1988.3.21)



水頭ポケットパークに対する期待の声が沢山寄せられた

現在の利用方法

二段に段差をつけて使い分け



利用は水汲みが大半



利用頻度は低下

現在の管理と所有

管理

1軒ごと（全14軒）
週に1度の当番制



土地の 所有権

新聞報道によれば…
ポケットパーク整備の際に、地主から提供が
あったため、現在の所有権は市であると
考えられる

存続の岐路に立つ水頭の井戸

道路拡幅工事計画

市道堀町縦線（約550メートル）の拡幅を計画
堀町縦線付近ではイオン島原店が新装開店し
交通量が増加している

2019年度から拡幅工事に着工し
現在は3/5がほぼ完了

残りは一歩街アーケード前から白土湖通り
までの「水頭工区」約220メートル

2027年度に完成予定



計画に伴って水頭の井戸は消滅の危機にある

住民の利用頻度は低下しているが…



岡野明寿さん

掃除がなくなるのは良いけど
小さくてもいいから残してほしい！

水頭の井戸の存続を望んでいる

水頭の井戸の消滅の危機

上水道の開設

1960（昭和35）年に水頭の地域で上水道が開設

水組合の解散

2003（平成15）年から水組合を結成している

市役所が掃除道具等の費用を賄うことになり、組合費の徴収が不要になったため

2019（平成31）年に解散

道路拡幅に伴う移転問題

水頭の井戸はつねに消滅の危機に直面していた

にもかかわらず、なぜ脱退者を出すことなく掃除が続いてきたのか？

水頭は 掃除当番を「家」単位としている

水場の掃除当番は自治会の班や組ごとに行う場合が多いが…

「家」単位で継承する = 1軒で掃除をする



一見すると、脆弱に思えるが
より強い責任感を持たせることにつながっている

井戸掃除当番順

1. 水本 茂 分家

2. 川島信輔

3. 柳 秀次 分家

4. 吉田和興 本家

5. 吉田愉臣 分家

6. 吉田則行 分家

7. 吉田久喜 分家

8. 吉田保 分家

9. 岡野明寿

10. 貞松 徹 分家

11. 福島 やよい 本家

12. 秋田宗洋

13. 城田晃江 分家

14. 城田伸広 本家

本家

4. 吉田和興

14. 城田伸広

11. 福島 やよい

旧姓：林田

分家

5. 吉田愉臣

6. 吉田則行

7. 吉田久喜

8. 吉田保

3. 柳秀次

13. 城田晃江

10. 貞松徹

水頭の「家」は

吉田家

城田家

林田家
(現：福島家)

3軒による「**本家-分家関係**」が核となっている
そこに、周辺の家々が加わっている

吉田和興さんのお母さんと城田家のお母さんは姉妹
吉田家と城田家は親戚関係

吉田家本家では、掃除当番が3代続いている

母が高齢のため、掃除を免除してもらっていた期間があった
自分が戻ってきてからは、その分働こうと思っている



吉田和興さん

ほかの家々に対してお母さんの貸しがある

家同士の貸し借り関係がある

82年間で脱退したのは2軒

亡くなったため

移転したため

水頭に住んでいるのに
脱退した家は一軒もない

自分より年上の人
がやっているなら
続けたい

本家が
頑張っているのに
抜けられない

このような心持ちがあったのではないか



この先も続いていくと自信をもって語られる

結論

高齢化が進む水頭地区において
なぜ82年間も脱退者をだすことなく水場の掃除が続いているのか？

「家」を担い手継承の単位としている

吉田家、城田家、林田家の3軒の「本家-分家関係」を核に
掃除の仕組みがつくられてきた



井戸の管理は「イエの務め」として継承されてきたからこそ
脱退者をうみだすことなく82年間も続けられてきたのである

水頭地区では、井戸の管理を
本家-分家関係に支えられた「家」を単位
としているからこそ、結果的として
水頭の井戸の「価値」の存続にもつながって
いるのである

文献

- 有明町教育委員会編（1997）『有明町の民俗』
- 島原市白山地区「四船津」ふるさとの「方言」と「写真」の保存実行委員会編（2014）『続・方言「島原ことば」みなと島原のうつりかわり』
- 野田岳仁（2018）「コモンズの排除性と開放性―秋田県六郷地区と富山県生地地区のアクアツーリズムへの対応から」鳥越皓之・足立重和・金菱清編『生活環境主義のコミュニティ分析―環境社会学のアプローチ』ミネルヴァ書房：25-43
- 野田岳仁（2023）『井戸端からはじまる地域再生―暮らしから考える防災と観光』筑波書房，小田切徳美監修
- 野田岳仁（2024）『“井戸端”から考える、コミュニティの未来』名水サミット基調講演資料

本研究の知見

住民の暮らしに根付いた2つの水場の「価値」存続の論理

水場の管理の担い手を

浜の川
湧水

水場の「価値」のわかる
強力なファンを開拓

水頭の
井戸

本家-分家関係に支えられた
「家」単位

従来の政策

清掃業者に委託

NPOやボランティアを動員

自治会の構成員を動員

今回の知見

浜の川湧水

「価値」のわかる
少数の強力なファン



水頭の井戸

本家-分家関係を核
とした「家」



提言のまとめ

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開